

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																			
麻生医療福祉専門学校 福岡校		平成9年2月13日		竹口 伸一郎		〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-29 (電話) 092-415-2294																			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																			
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		麻生 健		〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																			
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																			
教育・社会福祉	福祉・教育専門課程	福祉心理学科			平成22年文部科学省 告示第152号	—																			
学科の目的	社会福祉士受験資格取得(実務経験要1年)及び精神保健福祉士受験資格取得(実務経験要1年)の為に指定科目履修を行い、高い専門性を有した福祉専門職の養成を行なう。また、独自の人間力向上のためのGCB教育を柱に、向上心と協調の精神をもって広く社会に貢献できる人間性豊かな人材を育成する。																								
認定年月日	平成26年3月31日																								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																		
3年	昼間	3,054時間	1,562時間	1,072時間	420時間	0時間	0時間																		
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																			
90人		56人	0人	2人	30人	32人																			
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各期毎5段階にて評価 担当教員が定期試験、出席等の状況をもとに評価																				
長期休み	■夏季:8月9日～9月17日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■春季:2月12日～4月9日			卒業・進級条件	ア.指定科目全ての修得 イ.学年の出席率90%以上 ウ.卒業基準検定の取得 エ.学生としてふさわしい生活態度																				
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ガイダンスの実施。学科責任者との面談、三者面談の実施。			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																				
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 社会福祉・精神保健福祉分野 ■就職指導内容 2年次後期より就職に関する実務を総合的に学ぶ「就職実務」を開講。また、就職研修を実施し、次年度就職年次に進級する上での心構え等を学ぶ。更に独自の面接指導を合格するまで実施する。 ■卒業生数: 16人 ■就職希望者数: 15人 ■就職者数: 15人 ■就職率: 100.0% ■卒業者に占める就職者の割合: 93.8% ■その他 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉士受験資格(実務経験1年要)</td> <td>③</td> <td>16人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士受験資格(実務経験1年要)</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>福祉心理士(実務経験1年要)</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 特になし					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	社会福祉士受験資格(実務経験1年要)	③	16人	16人	精神保健福祉士受験資格(実務経験1年要)	③	15人	15人	福祉心理士(実務経験1年要)	③	15人	15人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
社会福祉士受験資格(実務経験1年要)	③	16人	16人																						
精神保健福祉士受験資格(実務経験1年要)	③	15人	15人																						
福祉心理士(実務経験1年要)	③	15人	15人																						
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 8.9% 平成29年4月1日時点において、在学者56名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者51名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路の変更、健康問題、経済的問題など ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による要因を抱えた学生に対する個別面談。学生の情報を教員間で共有しながらの学生ケース検討会の実施。学科責任者や保護者を含めての面談。ガイダンス記録による報告。さらに、精神医療的な支援が必要な学生については、医療機関と適切に連携しながら支援を行った。																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災した進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を卒業まで全額免除する。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	URL: <a href="http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/counselor/">http://www.asojuku.ac.jp/amfc/subject/counselor/</a>																								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

心理学やカウンセリングを中心に学びながら、そこで得た知識や技術を福祉の現場でいかに発揮するかということに主眼をおいたカリキュラムを編成している。更に、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験受験資格(実務経験1年要)のカリキュラムを並行して履修することにより、高度な専門職としての知識及び技術を習得できる。

実習においては、県内複数の実習施設と密に連携・調整をしており、実習終了後には、実習施設の担当者と意見交換を交わして本校教育にフィードバックしている。

また、福祉現場で重要視されるマナーや職業人として持つべき志についても、本校独自のカリキュラムであるGCB(global-citizen-basic感謝と志の教育)を通じて、その人間力向上に力を注いでいる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また、カリキュラム会議においては、教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
大庭 欣二	福岡福祉向上委員会 代表	平成30年4月～31年3月(1年)	③
江川 順一	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成30年4月～31年3月(1年)	③
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしつぷ 理事長	平成30年4月～31年3月(1年)	③
武田 聡	(NPO)木もれ日 カフェヒュッテ 施設長	平成30年4月～31年3月(1年)	③
占部 尊士	(学)永原学園 西九州大学短期大学部 准教授	平成30年4月～31年3月(1年)	②
大澤 利通	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	平成30年4月～31年3月(1年)	①
大山 和宏	(一社)福岡県精神保健福祉士協会 会長	平成30年4月～31年3月(1年)	①
前田 浩明	麻生医療福祉専門学校福岡校 副主任	平成30年4月～31年3月(1年)	
案納 賀世子	麻生医療福祉専門学校福岡校 ソーシャルワーカー科 リーダー	平成30年4月～31年3月(1年)	
川原 ゆり	麻生医療福祉専門学校福岡校 社会福祉科 リーダー	平成30年4月～31年3月(1年)	
中山 かおり	麻生医療福祉専門学校福岡校 福祉心理学科 専任教員	平成30年4月～31年3月(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年3回 6月・11月・3月

(開催日時)

第1回 平成29年6月24日(土)14:30～16:30

第2回 平成29年11月10日(金)16:00～18:00

第3回 平成30年3月2日(金)16:00～18:00

(開催日時 予定)

- 第1回 平成30年6月30日(土) 14:30~16:30  
第2回 平成30年11月9日(金) 16:00~18:00 (予定)  
第3回 平成31年3月1日(金) 16:00~18:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

平成30年度のカリキュラム変更に向けて、スクールソーシャルワーカーをめざす学生に必要な知識・技能についての教育プログラムを再構築するために、必要なカリキュラムや科目について、本学科提案資料に対する助言及び指導をいただいた。カウンセリング技術の必要性と、スクールソーシャルワークについては、現場のワーカーの実践に学ぶ機会を多く取り入れることが重要であるとの指摘・助言を踏まえ、「発達心理学」「教育心理学」「スクールソーシャルワーク概論」「スクールソーシャルワーク演習」「家族心理学」「不登校・引きこもり援助論」を追加、平成30年4月よりカリキュラムを変更した。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科では、社会福祉士資格取得にかかる相談援助実習を240時間及び精神保健福祉士資格取得にかかる精神保健福祉援助実習を240時間履修することから、平素からの実習施設との有機的な連携をもとに、カリキュラムを編成している。

また、必要に応じて病院や福祉施設の専門職を招いての講義、施設利用者(当事者)の方の講義などをカリキュラムに組み込んでいる。さらに、演習においては可能な限りフィールドワークを実施し、現実が生じている事象から学習を深めていくことを重視している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

実習前に、施設担当教員と実習指導者が打ち合わせを行い、実習計画や内容、実習概要について協議・調整を行う。実習期間中は教員が巡回及び帰校日指導を行い、実習の進捗状況を確認し、個別指導を強化する。評価については、態度・知識・技能に応じて、評価基準に基づいた評価を指導者よりいただき、担当教員との相互評価としている。

実習終了後は学内で報告会を開催。その際は実習指導者に参加していただき、より実習での学びや気づきを深化させることができた。さらに校内他学科との合同実習報告会にも実習指導者に参加していただき、フィードバックを学生に還元し、実習の振り返りを強化している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
相談援助実習	国家資格である社会福祉士の受験資格取得に向けて、高齢者施設において相談援助の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	天空の杜 アットホーム博多の森 えがおで寺塚 サンシャインプラザ 新宮借同園 他
精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ	国家資格である精神保健福祉士の受験資格取得に向けて、精神障害者施設や精神科病院において精神保健の現場を見学・体験し、知識と技術の習得に努める。	心の春希望 カフェヒュッテ ほのぼのHAKATA ウエルフェア九州病院 蒲池病院 他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

本学科は、日本福祉心理士学会の認定資格である「准福祉心理士」の養成校として認可を受け、同学会に加盟及び参加することによって最新の福祉心理実践情報を収集し、その内容を教員間で共有し、学生に還元している。

また、「教職員研修規程」に則り、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。年度の初めに研修計画を作成し、各教職員のスキルに適した研修が、計画的に受講できるようにする。また必要に応じ、年初の計画以外の研修受講も可能としている。

## (2) 研修等の実績

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第15回日本福祉心理学会

連携企業等: 日本福祉心理学会

日程: 平成29年7月8日～9日

主題: 福祉現場の「実践」と「理論・研究」をつなぐ福祉心理学

内容: 福祉心理学に求められている課題の一つとして、対象者の支援において、いかにして心理学的な知見を生活臨床の中で活かし、心理職と他職種(福祉専門職等)が協働していくことが求められる。そのことを具現化するために、鹿児島大学名誉教授の十島雍蔵氏による「福祉現場の生活臨床に生きる福祉心理学の実践とは～ミクロな目とマクロな～」と題した記念講演の他、5つのシンポジウム、特別企画講演、ポスター及び口頭発表が開催された。

対象: 教員3名

研修名: 第3回九州福祉心理士学会研究大会

連携企業等: 九州福祉心理学会

日程: 平成30年3月21日

主題: 生活を支える福祉心理学

内容: 「福祉心理学のこれから」と題し、東京家政大特任教授の網野武博氏による基調講演に続き、主題に沿ったシンポジウムが開催され、医療、高齢者、児童の各分野からそれぞれ実践報告があった。各分野における福祉心理学の実践がどのように展開され、またどのような課題があるのかについて共有できる場となった。

対象: 教員1名

研修名: 第12回北九州地区社会福祉専門職団体連絡協議会合同研修会

連携企業等: 福岡県社会福祉士会

日程: 平成30年3月17日

主題: 災害ソーシャルワークを考える

内容: 情報提供として、北九州市保健福祉局の青木穂高氏から「今後の地域医療の進め方」と題して講演があった。その後、主題についてのシンポジウムと続き、東日本大震災への支援活動報告(福岡県社会福祉士会副会長伊東良輔氏)、熊本地震支援についての報告(福岡県精神保健福祉士協会会長大山和宏氏)、九州北部豪雨支援報告(福岡県社会福祉士会多田祐二氏)の3氏から実践報告があった。

対象: 教員1名

### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: カウンセリングⅡ

連携企業等: 日本交流分析協会

日程: 平成29年5月24日

内容: ロールプレイングによるケーススタディで、個別面談の仕方を学ぶ。

対象: 教員1名

## (3) 研修等の計画

### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 全国社会福祉教育セミナー

連携企業等: 日本ソーシャルワーク教育学校連盟

日程: 平成30年10月6日～7日

内容: ソーシャルワーク教育は誰がためにあるのか。

対象: 教員1名

### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: コーチング実践

連携企業等: 組織デザイン・ラボ

日程: 平成30年9月5日

目的: 学生のやる気を引き出し、自発的な行動を起こさせる、学生支援スキルを高める。

内容: 学校における学生・保護者との対応事例を使い、コーチング手法を学ぶ。

対象: 教員

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。  
また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンスの遵守
(3)教育活動	育成人材像に向けたカリキュラムの構築、教授学習プロセスの改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、成果の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者による生活相談、経済的支援、寮の整備、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスメント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校運営・教育活動に関する意見として、委員より「担任と学生が関わる時間の確保とその比重増」について要望があった。

本学科としては、入学に至る経緯に様々な事情・辛い体験がある学生が多いことから、1年前期のエンカウンター演習でのチームビルドやGCB I・IIを通じて「学校は楽しく・安全な場」であることを最優先として学科運営を行っている。限られた時間と人的資源の中で関わる時間をどう増やすかについて検討した結果、学生個人が抱える悩みを学科教員間で共有し、複数でアプローチしていくことを目的として、毎月第4水曜日に一人ひとりの学生のケースについて意見を交わすカンファレンスを実施することとした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
玉ノ井 敏子	(福)まごころ会 あゆみらい保育園 園長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
渡辺 裕子	(福)宰府福祉会 児童発達支援センターすみれ園 園長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
桑原 由美子	(NPO)発達障がい者就労支援ゆあしつづ 理事長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
武田 聡	(NPO)木もれ日 カフェ ヒュッテ 施設長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
江川 順一	(福)福岡愛心の丘 月隈愛心の丘 施設長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
大庭 欣二	福岡福祉向上委員会 代表	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
占部 尊士	(学)永原学園 西九州大学短期大学部 准教授	平成29年4月～平成31年3月(2年)	その他
大澤 利通	(公社)福岡県介護福祉士会 理事	平成30年4月～平成32年3月(2年)	その他
大山 和宏	(一社)福岡県精神保健福祉士協会 会長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	その他
潮田 大介	(有)ケンルック 事務長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
副島 和代	そえじま内科クリニック 事務長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員

井上 将彦	(医)聖峰会 マリン病院 事務次長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
小西 英樹	公立学校共済組合 九州中央病院 事務部長	平成29年4月～平成31年3月(2年)	企業等委員
西山 謙	(公社)福岡県病院協会 診療情報管理研究研修会 委員長	平成30年4月～平成32年3月(2年)	その他
熊谷 智彦	(学)久留米学園 久留米学園高等学校 校長	平成30年4月～平成32年3月(2年)	高校関係者
高田 照幸	株式会社 たかた商会 代表取締役	平成29年4月～平成31年3月(2年)	地域住民
西原 真由美	こども未来学科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
蒲池 桂子	福祉心理学科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
尾下 千賀子	ソーシャルワーカー科 保護者	平成30年4月～平成32年3月(2年)	PTA
木下 典子	医療秘書科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
塚本 のり子	医療情報科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
所崎 あすか	診療情報管理士科 保護者	平成29年4月～平成31年3月(2年)	PTA
眞島 顕弥	こども未来学科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
宮井 浩志	社会福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
田中 隼平	心理カウンセラー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
池上 幸子	介護福祉科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
山下 朋子	ソーシャルワーカー科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
大本 葉	医療秘書科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
庄崎 綾乃	医療情報科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生
中井 志帆	診療情報管理士科 卒業生	平成29年4月～平成31年3月(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL:<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>

公表時期:平成29年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、ASOの考え方、4つの特徴
(2) 各学科等の教育	学科コース一覧、国家資格・検定、就職情報、入学案内
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生学習・生活サポート、留学生就職サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他(学生便覧))

<http://www.asojuku.ac.jp/amfc/>

授業科目等の概要

(福祉・教育専門課程 福祉心理学科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			現代社会と福祉Ⅰ	現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			現代社会と福祉Ⅱ	相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			心理学理論と心理的支援	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			保健医療サービス	相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅰ	社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。	1前	30		○			○			○	
○			相談援助の基盤と専門職Ⅱ	総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。	1後	30		○			○			○	
○			相談援助演習Ⅰ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1前	30			○		○			○	
○			相談援助演習Ⅱ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	1後	60			○		○			○	
○			高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む）について理解する。	1後	30		○			○			○	



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。	2前	30		○			○			○	
○			交流ゼミⅠ-①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	1前	16			○		○			○	
○			交流ゼミⅠ-②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	1後	16			○		○			○	
○			マナーⅠ	社会人としての基礎的なマナーを理解し、行動出来るよう力を付ける。	1前	30			○		○				○
○			教育カウンセリング論Ⅰ	教育に関するカウンセリング技術を習得し、支援の幅を広げる。	1後	30			○		○				○
○			手話	聴覚障害についての正しい理解を深めると共に、手話の基礎的な運用技能を身につける。	1前	30			○		○				○
○			教育心理学	人格形成と子どもに有効な教育方法について学び、支援の幅を広げる。	1後	30			○		○				○
○			点字	視覚障害についての正しい理解を深めると共に、点字の基礎的な運用技能を身につける。	1前	30			○		○				○
○			対人心理学	コミュニケーションが人間関係作りに果たす役割の重要性について学び、ロールプレイを通してコミュニケーション力の向上に努める。	1前	30		○	△		○				○
○			音楽療法	音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上に向けて、意図的、計画的に活用する技法を学ぶ。	1前	30			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			発達心理学	人間の様々な行動やメカニズムについて学び、支援の幅を広げます。	1後	30			○		○				○
○			レクリエーションⅠ	レクリエーションの意義を理解すると共に、レクリエーションインストラクターの資格取得を目指して、その指導法について学ぶ。	1前	30		△	○		○				○
○			レクリエーションⅡ	より実践的なレクリエーションの指導法について理解し、事業参加や体験を通してその力を身に付ける。	1後	30		△	○		○				○
○			自己表現Ⅰ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1前	30			○		○				○
○			自己表現Ⅱ	演劇やダンスなどの表現活動を通して、自己を開放し、表現する力を身に付ける。	1後	30			○		○				○
○			エンカウンター演習	エンカウンター体験を通して本音を表現し、それを互いに認め合う事で、自己理解や他者への気付きを深める。	1前	16			○		○				○
○			グローバルシズンベシックⅠ	感謝と思いやりをテーマに、人間力、集団力、マナーの本質、行動力を学ぶ。	1前	16			○		○				○
○			グローバルシズンベシックⅡ	志を立てることをテーマに、夢、ビジョン、志、国際社会、成功者、自己変革を学ぶ。	1後	16			○		○				○
○			更生保護制度	更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。	3前	30			○		○				○
○			相談援助実習指導Ⅰ	相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。	1後	44			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			地域福祉の理論と方法Ⅰ	地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。	1前	30		○			○				○
○			地域福祉の理論と方法Ⅱ	地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。	1後	30		○			○				○
○			社会保障Ⅰ	現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む）について理解する。	2前	30		○			○				○
○			社会保障Ⅱ	社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。	2後	30		○			○				○
○			障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。	2前	30		○			○				○
○			スクールソーシャルワーク概論	スクールソーシャルワークに必要な基礎的な知識や概要等を理解する。	2前	30		○			○				○
○			スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワークに必要な基礎的な技術を取得する。	2後	30		○			○				○
○			相談援助の理論と方法Ⅰ	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。	2前	30		○			○				○
○			相談援助の理論と方法Ⅱ	相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。	2後	30		○			○			○	
○			相談援助実習指導Ⅱ	具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2前	46			○		○			○	
○			マナーⅡ	社会人としての基礎的なマナーを理解し、行動出来るよう力を付ける。	2前	30			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			教育カウンセリング論Ⅱ	教育に関するカウンセリング技術を習得し、支援の幅を広げる。	2前	30			○		○			○	
○			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む）について理解する。	2前	30		○			○			○	
○			精神疾患とその治療Ⅰ	代表的な精神疾患について、成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援といった観点から理解する。	2前	30		○			○			○	
○			精神疾患とその治療Ⅱ	精神医療・福祉との連携の重要性と精神保健福祉士がその際に担うべき役割について理解する。	2後	30		○			○			○	
○			精神保健の課題と支援Ⅰ	精神の健康についての基本的考え方と精神保健学の役割について理解する。	2前	30		○			○			○	
○			精神保健の課題と支援Ⅱ	精神保健を維持、増進するために機能している、専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。	2後	30		○			○			○	
○			精神保健福祉に関する制度とサービスⅠ	精神障害者の相談援助活動と法（精神保健福祉法）との関わりについて理解する。	2前	30		○			○			○	
○			精神保健福祉に関する制度とサービスⅡ	精神障害者の支援に関連する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。	2後	30		○			○			○	
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ	精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について理解する。	2前	30		○			○			○	
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ	精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について理解する。	2後	30		○			○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			交流ゼミⅡ-①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2前	16			○		○				
○			交流ゼミⅡ-②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	2後	16			○		○				
○			ピアヘルパー	カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人と関わる為に必要な基本的な力を身に付ける。	2後	30		○	△		○			○	
○			芸術療法	絵や音楽、陶芸や製作活動などを通して、知的障害者や精神障害者の心を表現させることにより、自立に向けての支援や精神疾患の治療に繋げる手法を学ぶ。	2後	30			○		○			○	
○			社会理論と社会システム	社会理論による現代社会の捉え方を理解する。	2後	30			○		○			○	
○			精神保健福祉相談援助の基盤Ⅰ（基礎）	精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義について理解する。	1後	30			○		○			○	
○			精神保健福祉援助演習Ⅰ（基礎）	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	2後	30			○		○			○	
○			精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。	2後	60			○		○			○	
○			就職実務Ⅰ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	2後	30			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			相談援助実習	相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。	2前	180				○	○	○	○	○	
○			精神保健福祉援助実習Ⅰ	精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉援助並びに障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。	2後	120				○	○	○	○	○	
○			権利擁護と成年後見制度	相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。	3後	30			○		○			○	
○			人体の構造と機能及び疾病	心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。	3前	30			○		○			○	
○			相談援助の理論と方法Ⅲ	相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む）	3前	30			○		○			○	
○			家族心理学	様々な問題を抱える家族への援助の方法について理解する。	3前	30			○		○			○	
○			不登校・引きこもり援助論	不登校や引きこもりの現状を理解し、関わり方の基礎を習得する。	3後	30			○		○			○	
○			相談援助の理論と方法Ⅳ	相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。	3後	30			○		○			○	
○			精神障害者の生活支援システム	精神障害者の生活支援の意義と特徴について理解する。	3前	30			○		○			○	
○			精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ（専門）	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解する。	2前	30			○		○			○	

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			精神保健福祉援助演習Ⅱ (専門)	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3前	60			○		○				
○			精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。	3前	30			○		○				
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅲ	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。	3前	30			○		○				
○			精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅳ	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。	3後	30			○		○				
○			交流ゼミⅢ－①	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3前	16			○		○				
○			交流ゼミⅢ－②	他学年との交流を通してコミュニケーション力を高めると共に、学生間のネットワークを広げ、相互支援の基礎を学ぶ。	3後	16			○		○				
○			カウンセリング概論	カウンセリングの基礎について理解を深め、カウンセリングの技法を習得する。	3前	30			○		○				
○			情報処理Ⅰ	情報の意味とコンピューターの発達過程、ハードウェア・ソフトウェアについて理解する。	2後	30			○		○				○
○			情報処理Ⅱ	社会に出て最低限必要なWord、Excel、PowerPointの基本操作技術を習得する。	3前	30			○		○				○

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			犯罪心理学	犯罪を犯してしまう人間の心理について知り、特に児童や精神障害者の触法について、そのメカニズムを学ぶ。	3前	30		○			○			○	
○			就職実務Ⅱ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3前	30		○			○			○	
○			就職実務Ⅲ	社会で求められる人材像について理解し、就職活動の流れや対策を深める。	3後	30		○			○			○	
○			金曜ゼミⅠ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3前	30			○		○			○	
○			金曜ゼミⅡ	福祉に関連する興味のある内容や分野について、自主的な学習を通して学びを深める。また、ボランティア活動を通して自己を研鑽する。	3後	30			○		○			○	
○			福祉行財政と福祉計画	福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。	3後	30		○			○			○	
○			低所得者に対する支援と生活保護制度	低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。	3後	30		○			○			○	
○			福祉サービスの組織と経営	福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。	3後	30		○			○			○	
○			社会調査の基礎	社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。	3後	30		○			○			○	
○			相談援助演習Ⅲ	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	3後	60			○		○			○	



分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			卒業研究	3年間の学びの集大成としてグループに分かれて研究論文を作成する。	3後	30		○			○			○	
○			精神保健福祉援助実習Ⅱ	総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。	3前	120				○		○	○	○	○
合計				90科目											3,054単位時間(単位)

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。</li> <li>学年の出席率が90%以上であること。</li> <li>学生としてふさわしい生活態度であること。</li> </ul>		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週